



説教要旨 「ユダヤ人もギリシア人もなく」

ガラテヤの信徒への手紙 3章26～29節

最初期のキリスト教はユダヤ教の一派でした。熱心なユダヤ教徒であったパウロは、イエスを信じる人びとを“ユダヤ教の異端”として迫害する者でしたが、そんな彼が回心してイエスを信じる人の群れに加わり、それまで一緒に迫害していたユダヤ人たちから裏切り者として命を狙われるようになりました。ユダヤ人とキリスト教徒の対立の最前線に立っていたパウロは、キリスト教徒同士の対立の最前線にも立っていました。キリスト教徒同士の対立とは、割礼を受けなくてはならないとか、食べていいものと食べてはならないものがあるという食物規定といった、ユダヤ的な慣習を守る人たちと、異邦人と同じように、割礼もせず、また食事も何でも食べていいじゃないかという人たちとの対立です。そうした文脈の中での、パウロは「ギリシア人もユダヤ人もない」というのです。

「そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。」(28節)

パウロは、ユダヤ人とギリシア人、男と女に違いがあることを否定しているわけではありません。また奴隷という身分をなくすことについて語っているのでもありません。ここでパウロが見つめているのは、神さまの救いにおいて、私たちは民族や身分や性別の違いから自由にされているということです。

私たちには違いとしてしか受けとめられないことがあります。しかしそのような違いにもかかわらず、私たちは「キリスト・イエスにおいて一つ」とされているのです。どんなに乗り越えることが困難に思える大きな壁であっても、イエス様が私たちに与えてくださった救いによるならば、必ず乗り越えることができるはずなのです。困難に直面するときこそ、イエス様によって救われた私たちが、「キリスト・イエスにおいて一つ」とされていることを思い起こし、たとえ分断され離れていたとしても、私たちは一つであることに希望をおき、歩んでまいりましょう。

(2020・8・9 説教者：稲垣真実)